2019 年度事業 進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２１年　9月　30 日
● 事　業　名　：みんなの海 project　～地域のすべての子に海での楽しい体験を～
● 資金分配団体　：公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
● 実 行 団 体　：認定 NPO 法人オーシャンファミリー
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
１．本事業実施対象地域において、障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達が海の自然体験に参加できる状態になる。	海の自然体験に参加した対象となる子どもの数	地域全体で 70 人（年間延べ 200 人）	2023 年 2 月	2021 年 4 月 1 日～8 月 31 日まで合計 34 人（延べ 120 人）。	2
２.、障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達が海の自然体験につながる活動プログラムに参加できる状態になる。	海の自然体験につながるオンラインや夏季以外の活動プログラムに参加した子どもの数	地域全体で 10 人	2021 年 8 月	2021 年 4 月 1 日～8 月 31 日まで合計 4 人（延べ 25 人）。	2

３．障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達の保護者が海の自然体験の有効性を認識している状態になる。	海の自然体験に参加した子の保護者の数	地域全体で 50 人 （年間延べ 200 人）	2023 年 2 月	2021 年 4 月 1 日～8 月 31 日まで合計 68 人（延べ 240 人）。	1
４．障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達と接する障害児施設等のスタッフが海の自然体験の有効性を認識している状態になる。	海の自然体験を見学した障害児施設等のスタッフの数	地域全体で 100 人 （年間延べ 250 人）	2023 年 2 月	2021 年 4 月 1 日～8 月 31 日まで合計 30 人（延べ 72 人）。	3
５．学校や団体等が海の自然体験に連携・協力・支援する状態になる。	連携・協力・支援する学校・団体等の数	地域全体で１０事業者 （初期値の２倍）	2023 年 2 月	３事業者	3

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐短期アウトカムの目標値
5. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・当団体で主催する年間スクールを、オンラインで行った。 ・連携、協力する学校や団体とオンラインにて打合せを行った。 ・器材の数を増やし、通常よりも密にならないようシーカヤックの活動を行った。 ・集合場所を室内でなく、屋外に変更して行った。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）
特になし
2.広報制作物等
特になし
3.報告書等
特になし

2019 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部	報告書作成	[redacted]	事業担当者
	アンケート調査の実施	[redacted]	事業担当者
	ディスカッションの実施	[redacted]	事業担当者
外部	アンケートの作成	[redacted]	神奈川大学人間科学部人間科学科教授

A）事業のアウトカムの進捗状況の評価

①　短期アウトカムの進捗状況

指標	目標値・状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
①海の自然体験に継続して参加を希望する障害児等の人数	①継続参加を希望する子の人数（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	2023 年 2 月	2020 年度に参加したほぼ全ての子が 2021 年度も参加してくれた。また、2021 年度の参加者へのアンケートでもほとんどの子が来年度も参加したいとコメントしてくれている。
②海が好きか、また親しみを感じるかなど、意識・行動の変容の向上率	②海が好きか、また親しみを感じるかなど、意識・行動（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	2023 年 2 月	保護者アンケートや障がい者施設等スタッフアンケートで、参加した子ども達が海を好きになり、親

			しみを感じてくれている様子が伺えるコメントを多数頂いている。
本事業を通じた収入の増加	当事業の収入で運営が成り立っている状態	2023 年 2 月	2021 年度事業による収入増加額約 25 万円 2020 年度事業による収入増加額約 13 万円 当事業が浸透したことにより収入増加に繋がり、4 年後以降の事業継続に目途をつけていきたい
本事業で連携した学校団体が自主開催した海の自然体験の数	地域全体で 5 回	2023 年 2 月	まだ 0 回。

② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」（※任意）

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には ☐ 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある ☑ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	ここまでの事業を通して、知的障害やひとり親家庭などの社会的ハンディキャップを持つ多くの子ども達に海の自然体験の機会を提供することができた。参加した子ども達は継続して参加してくれていて、海の楽しさ素晴らしさを体験し、海に親しみを感じ好きになってくれている。 プログラム内容は特に改善する必要はないが、短期アウトカムの達成のためには、連携協力する学校や団体の数を増やすことが必要だと感じている。そうすることで、事業を継続していくための収入増加にもつながる。

B）事業の改善状況の評価

①　事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	意図した対象者に対し、事業の実施が出来ているか	アウトプット５項目のうち、計画より進んでいるのが１つ、計画どおり進んでいるのが２つ、計画より遅れているのが２つ（「障害児施設等のスタッフが海の自然体験の有効性を認識している状態になる」、「学校や団体等が海の自然体験に連携・協力・支援する状態になる。」）となった。	「調査結果」 参加者の保護者へのアンケートで下記の記載があった ・普段親が海に連れて行ってあげられないので、海で遊ばせてあげたいと思い参加させました ・家では海に連れて行ってあげる機会がないため、海自体を思いっきり楽しんでほしい ・弟もいて父の仕事が忙しいため海へ行くチャンスがなかなか作れません ・家族皆で海に行くことがなかったので、波の感じや深さや広さを感じながら、プールとは違った体験をしてほしいと考え、参加させました。 ・何度か海を見せに行ったのですが、嫌がってしまいダメでした。道具や人手、人の目などたくさんあるみなさんと一緒の方が安心かなと思っています ・元々水遊びは大好きでプールは自宅、旅先、レジャーで大型の所と色々行っていましたが、海は連れて行ったことがなく、どんな反応をするか分かりませんでした。 ・海が近くてもほとんど連れて行くことがないので、とにかくいつもの遊びとは全く違った海の遊びを体験してほしくて参加させました。

			「考察」 当初の計画から、対象者として考えてきているのは、障害児等何らかの制約で自然体験の機会が限られてきた子。アンケートでは、多くの参加者が海での体験を全くしてきておらず、そのような子を対象者として体験の機会を提供できていると評価する。一方で、対象となる子はもっと多くいることは明らかであり、広報等を充実させて周知が図れるよう今後も取り組んでいることが求められる。
実施状況の適切性	コロナ追加助成による影響の評価	学校や団体の新規開拓が進んでおらず、体験会の実施数は予定より少なくなっているが、プログラムの実施という点では、コロナ追加助成で導入した資器材により、密を避けたプログラムの実施、またオンラインでの打ち合わせやプログラムの実施が可能になった。	「調査結果」 グループディスカッションで、コロナ追加助成による影響として挙げられたもの ・シーカヤックの艇数が増えたことにより、コロナによって密を避けるため乗員数を減らす必要がある中でも予定通りの参加者を受け入れて実施することができた ・カメラ付き PC を購入したことや wifi 環境を整備したことで、オンラインでのスタッフ打ち合わせやオンラインでのプログラム提供を実施することができた スタッフ、ボランティアの方へのアンケートで下記の記載があった ・設備的なところでは、シャワー等衛生面で不安が残りました（コロナ etc.こういう時代）。又、人数的な配分を工夫し、時間差をつけた形でゆとりをもってシャワー着替えにのぞめるようにこちらも考えた方がよいのか。

			「考察」 新型コロナウィルス感染症の影響により、学校や団体の新規開拓が進んでおらず、体験会の実施数は予定より少なくなっている。 一方、プログラムの実施という点では、コロナ追加助成で導入した資器材により、密を避けたプログラムの実施、またオンラインでの打ち合わせやプログラムの実施が可能になったことで、予定通り実施できており、コロナによる阻害要因をおおむね除くことができ、ほぼ予定通り事業を実施できていると評価する。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	事業設計の実行が計画通りに行われなかった場合、原因の分析はされているか	主な原因としては新型コロナウィルス感染症の影響により、訪問説明を含めた新規のアプローチが難しい。	「調査結果」 グループディスカッションで、事業設計の実行が計画通りに行われなかった原因の分析として挙げられたもの ・学校や団体の体験会の実施が予定より少なくなっているが、そもそも協力・連携する学校や団体の数が少ない。新規開拓のためのアプローチが新型コロナウィルス感染症の影響により、十分にできていないことがその原因である 「考察」 新型コロナウィルス感染症の影響により、電話でコンタクトをとった後に訪問の予定を組むのが難しく、オンラインで打ち合わせを行った団体とも次のステップとして体験会の見学に来てもらうことなども、緊急事態宣言が出されたことによりキャンセルとなるなど、困難な状況があった。そのような中でもどうアプローチをしていく

			かを検討して、協力・連携する学校や団体の数を増やしていくことが事業設計の実行を計画通り行うことには必要であり、今後に生かしていきたい。
組織基盤強化・環境整備	① 休眠預金事業を実施することにより、組織として対応できているか	① 担当スタッフを 4 名配置することで役割を分担することで問題なく対応できている	① 「調査結果」 グループディスカッションで、組織として対応できていることとして挙げられたもの ・休眠預金事業には 4 人のスタッフが日常的に関わっている ・A は事業全体のハンドリング、資金分配団体との連携、連携・協力する学校や団体との連絡などを担っている ・B は会計、評価を担っている ・C はボランティアスタッフの募集、連絡などを担っている ・D は会計を担っている 「考察」 スタッフ 4 人がそれぞれの担当分野を担いつつ、連携して休眠預金事業を実施することができており、組織として対応できていると評価する。
	② 新たな連携が自分たちの組織にどのような変化をもたらしているか	② 新規の団体やスタッフを通じて、様々な声を聴くことが出来、活動に	② 「調査結果」 グループディスカッションで、新たな連携が自分たちの組織にもたらしている変化として挙げられたもの

		良い変化が生じている	・この事業を通して新たに当団体に関わるボランティアスタッフが増加した ・何らかの制約でこれまで一度も海に入ったことがない子に体験の機会を提供することで、自分たちが行っていることの価値にあらためて気付かされた ・参加者や保護者、ボランティアの方へのアンケートを通して、多様な方の感想や意見を知ることができた 「考察」 休眠預金事業を通して新たな連携ができたことにより、関わるボランティアスタッフの方が増えたり、アンケート調査を通して多様な方の意見や感想を知り、自分達が行っていることの価値にあらためて気付かされ、新たな事業に取り組んでいくモチベーションが生まれたりと自分たちの組織に良い変化が起こっていると評価する。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

事例：2020 年 8 月に実施した一般の方向けの体験会に参加された 15 歳の女の子は、車いすユーザーで座ることはできますが、側弯や低緊張で補助の方がいないと不安定。また、気管切開と胃ろうの医ケアありで、プールは好きでご家族で行かれる機会もあるが、海には入ったことがない、ということだった。当団体としても安全を確保した上での受け入れができるか不安な部分もあったが、資金分配団体の B&G 財団が所有する水陸両用車いすをお借りすることができ、ご本人はもちろん、付き添いの保護者の方、ご祖父母様も見学して頂き、大変喜んで頂いた。その後、2021 年の 7 月と 8 月に行った体験会にも継続してご参加頂いた。

③　事前評価時には想定していなかった成果

当事業を通して、新たに関わることになった団体の方や参加者の方、またボランティアスタッフの方から、当団体が行う海遊びプログラムの良さを評価して頂き、自団体の価値や可能性を再認識するとても良い機会となった。

④　事業計画の改善の必要性の確認

- ☑ 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- ☑ 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- ☑ 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇛アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- ☑ 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- ☑ 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために ☐　事業計画は適切に改善されたといえる ☑　事業計画を適切に改善する見込みがある ☐　事業計画の改善について、課題が残っている と自己評価する	中間評価の実施を通して、事業のこれまでの取り組みを振り返り、これから取り組むべきポイントを認識することができた。事業計画をどのように改善するのがいいか、関係者と協議して検討していきたい。

添付資料

3.活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、３～4 枚程度）